

令和2年度 学校評価アンケート 結果報告

学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。そこでいただいた結果を集計いたしましたので、ご報告いたします。この結果をもとに、今後も子どもたちのためによりよい教育活動に取り組んでまいります。

回答数417 回答率88%

A：そう思う B：だいたいそう思う C：あまりそう思わない D：そう思わない E：未回答

【保護者アンケート】

○学校での学習・生活について

評 価 項 目		A	B	C	D	E
1	学校は、様々な活動を通して、子ども達が集団の一員として協力し合って生活できるようにしている。	61%	39%	0%	0%	0%
2	学校は、子ども達が、相手を思いやる言葉を使って生活できるよう指導している。	46%	48%	3%	0%	0%
3	学校は、学習の基礎・基本の定着を目指して指導している。	54%	45%	1%	0%	0%
4	学校は子どもたちが主体的に学習に取り組むことができるような学び合いの環境づくりに努めている。	53%	42%	5%	0%	0%
5	学校は、一人ひとりの特性に合わせた教育に努めている。	28%	55%	17%	1%	0%
6	学校は、子ども達が落ち着いて安心して学習や生活ができるように努めている。	52%	43%	5%	0%	0%
7	学校は、なわとびタイムやロング休みなどを活用し、体力の向上を図っている。	59%	39%	1%	0%	0%
8	学校は、家庭や地域と連携して教育活動をしている。	45%	48%	6%	0%	0%
9	学校は、学援隊や保護者・地域と協力して、子ども達の安全確保に努めている。	65%	34%	1%	0%	0%
10	学校は、子どもたちが自分の考えをもち、ねばり強く活動に取り組み、人とのつながりを実感できるように努めている。	37%	55%	8%	0%	0%

○ご家庭での様子について

評 価 項 目		A	B	C	D	E
11	家庭では、お子さんとの話し合いを大切にしている。	53%	45%	3%	0%	0%
12	家庭では、お子さんのよさや頑張りを認め、ほめている。	49%	47%	5%	0%	0%
13	家庭では、自分のことは自分でできるよう、自立心を育てている。	37%	53%	9%	0%	0%
14	家庭では、規則正しいリズムで生活できるようにしている。	35%	53%	11%	1%	0%

《集計結果より》

今年度も全項目でA・B合わせて8割以上の評価をいただきました。特にA・B合わせて9割に上る項目が多くありました。このことから、今年度も本校の学校教育活動は、一定の成果を保護者、地域の方に認めていただいていると受け止めました。この結果をもとに来年度も、今年度の学校評価での課題をもとに、具体的な改善策を考えていきます。

○学校での学習・生活について

【評価項目1・2】は豊かな心、【評価項目3・4】は確かな学力、【評価項目7】は健やかな体を育成するための重点取組分野です。それぞれA・B合わせて9割以上の評価となりました。昨年度の同項目でも9割以上の評価となっていますが、今年度の結果はAのポイントが2～4%高くなりました。継続して取り組んでいる「なかよし活動」の充実、校内重点研究のテーマである「学び合いの中で自分の考えや思いを深められる子」の育成、そして9年目になる「なわとびタイム」や、長縄集会などの効果が表れたものであると捉えています。今後も子どもたちが自己有用感を高め、成果を実感できるような教育活動を目指していききたいと思えます。

【評価項目5・6】は特別支援教育の重点取組分野です。こちらはCのポイントが17%となりました。このことを真摯に受け止め、児童支援専任や特別支援コーディネーターを核として、全職員で子ども一人ひとりのニーズに合わせて適切な対応ができるよう、取り組んでいきます。また、【評価項目10】は、今年度より重点取組分野として取り上げた「やりぬく力」の育成の分野です。子どもたちが活動の中で「ねばり強さ」と「熱意」を意識しながら取り組むことができるよう授業を展開してきました。しかしCのポイントが8%という評価となっています。こちらは引き続き子どもたちに身に付けさせたい力であると感じていますので、子どもたちが「わかる」「できた」と感じられるよう、学習の見通しをもてるようにしたり、身に付いた喜びを実感したりできるような授業を目指していききたいと思えます。

今年度より新学習指導要領に基づき、全教育活動で子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善を行っています。今後も、子どもたちの資質・能力を育成するために「何を学ぶか」という必要な指導内容等を検討し、その内容を「どのように学ぶか」という具体的な学びの姿を考えながら指導を続けてまいります。

○ご家庭での様子について

全体的に全項目ともに、昨年度より1～5パーセント高くなりました。今年度の、予想していなかったコロナ禍での生活環境の変化なども影響していると推察します。しかし、保護者のみなさまが子どもたちと十分向き合う時間をとっていただけていることが、子どもたちの安心感や自己肯定感の高まりにもつながっていると考えます。今後も継続していただくことで、家庭と学校が連携して、子どもたちが安心して学習したり生活したりできる環境を整えていけると思えます。今後ともご協力よろしくお願ひいたします。

【児童アンケート】

4:よくあてはまる 3:まあまああてはまる 2:あまりあてはまらない 1:まったくあてはまらない

評 価 項 目		A	B	C	D	E
1	なかよし活動や学級活動ではみんなと協力して活動していますか。	62%	34%	3%	0%	0%
2	相手を考えた言葉づかいで話していますか。	50%	43%	6%	1%	0%
3	学校の勉強はわかりますか。	62%	34%	3%	1%	0%
4	授業中、自分から進んで学習に取り組んだり、自分の考えをだれかに伝えるために努力したりしていますか。	43%	44%	11%	1%	0%
5	人によって態度を変えないで、みんなが気持ちよく過ごせるようにしていますか。	60%	32%	7%	0%	0%
6	学校で、安心して生活をしながら学習していますか。	73%	23%	4%	0%	0%
7	なわとびタイムや休み時間に進んで体を動かしていますか。	58%	29%	11%	2%	0%
8	地域の人や、特別に来られた方が教えてくださる授業に興味をもって取り組んでいますか。	62%	32%	5%	1%	0%
9	さくらっ子ルールを守って、安全に気をつけて生活していますか。	65%	29%	5%	1%	0%
10	自分の考えを大切にしながら最後まで学習に取り組んでいますか。	61%	33%	4%	1%	0%

【職員アンケート】

A:できた B:だいたいできた C:あまりできなかった D:できなかった

重点取組分野	具体的取組	A	B	C	D
豊かな心	①道徳科を中心に、道徳的価値を明確にし、道徳的判断力・心情等を育てる。学年で道徳授業公開を年1回以上行う。	13%	87%	0%	0%
	②豊かな体験活動に取り組み「なかよし活動」の充実を図る。	9%	87%	4%	0%
	③人権尊重を基盤とする学級づくりに取り組み、子どもたちが人権の視点を意識できるような授業を行う。	17%	83%	0%	0%
生きて働く知	①新学習指導要領完全実施を踏まえ、子どもの具体的な姿で育成状況をつかむ。	4%	96%	0%	0%
	②子どもたちが主体的・協働的な学習を実現することができるよう、学習過程の工夫、学び合いの環境づくり、学び合いの仕方を工夫する。	26%	74%	0%	0%

	③子どもたちの資質・能力の育成を行うために、「学びに向かう力、人間性等」「思考力・判断力・表現力等」「知識・技能」の柱を意識し、カリキュラム・マネジメントを行う。	4%	96%	0%	0%
	④授業評価・授業改善システムを活用して授業改善を図る。	4%	96%	0%	0%
特別支援教育	①児童支援専任や特別支援コーディネーターを核として、特別支援を必要とする子どもの課題を教職員で共有し、校内委員会やケース会議等を随時開催するなど適切な対応をしていく。	30%	70%	0%	0%
	②どの教職員も同じ対応ができるよう、合理的配慮やインクルーシブ教育への理解を深める。	9%	91%	0%	0%
	③一般学級と個別支援学級との連携を深め、どの学級にいる児童であっても安心して学校生活を送ることができるような適切な配慮を行う。	30%	70%	0%	0%
児童指導	①これまでの「学校のきまり」や「さくらっ子ルール」をよく理解させ、児童や保護者への周知徹底を図る。	4%	96%	0%	0%
	②月当番による各月の中心指導内容を、朝会等で児童・教職員に周知徹底を図ると共に、気になる行動があった時なども随時指導徹底を図る。	13%	87%	0%	0%
健やかな体	①臨時休校期間の影響を鑑み、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。	17%	83%	0%	0%
	②「桜岡なわとびタイム」を火曜日の朝会時に実施し、全児童が運動に取り組む習慣を身に付けるとともに、持久力の向上を図る。	39%	61%	0%	0%
	③自分の健康や体力を見つめなおすことで、自分の体と心の状態を知り、よりよい健康習慣を身に付ける。	13%	87%	0%	0%
地域連携 学校運営 協議会	①地域コーディネーターと連携し合い、地域の教材（人を含む）を開発するなど学習支援を充実させる。	13%	64%	0%	0%
	②地域の良さに目を向ける活動を学校教育活動全体に取り入れ、明日を担う者として自分ができることを少しずつ増やしながら地域愛を育てる。	9%	91%	0%	0%
	③学校運営協議会の方々に学校行事や授業研究会に参加していただき、教育活動の評価を受けながら改善を図る。	22%	78%	0%	0%
安全教育	①交通安全を核に「桜岡小学校安全・安心週間」の活動を充実させ、主体的で具体的な取り組みを実践する。	61%	39%	0%	0%

	②不審者や交通安全の視点など、様々な防犯・防災知識を広げるために、出前授業などを進んで取り入れ、自らの身を守る意識を高める。	39%	61%	0%	0%
「やりぬく力」の育成	①子どもたちが活動の中で「ねばり強さ」と「熱意」を意識しながら取り組むことができるよう、教師が意図的計画的に授業を展開する。	17%	83%	0%	0%
	②子どもたちが自分の考えをもち、自分の言葉で伝える」力や、「いろいろな方法で解決する」力を身に付けながら人とつながるよさを実感できるよう努める。	30%	70%	0%	0%
いじめへの対応	① いじめを許さないという教師の強い意識のもと指導を行う。	57%	43%	0%	0%
	②いじめの未然防止・早期発見・解決できるよう、児童の心の動きを的確にとらえる。	17%	83%	0%	0%
	③元気カードの時期を考慮したり、内容を発達段階によって工夫したりするなど、一人ひとりの実態をつかむ。	22%	74%	4%	0%
人材育成 組織運営	①人権教育、児童指導・児童理解、特別支援教育、不祥事防止などの校内研修を計画的に行い、使命感の向上を図る。	22%	78%	0%	0%
	②メンターチーム（1～3年目）の研修を行い、適宜教科主任や主幹教諭が関わり、段階に合わせた指導・助言を適切に行い、会を充実させ、若手教員が教師力の向上を図る。	22%	78%	0%	0%

《児童・保護者・職員の集計結果より》

全体的にはA・B合わせてほぼ9割を超える結果となっています。しかし児童、職員ともに昨年度よりAの評価がやや低く、Bの評価がやや高くなっている傾向があります。これは、新型コロナウイルス感染症の影響で、これまで行われていた教育活動が通常どおりに実行しにくくなっていたことも要因であると考えられます。

昨年度と比較して「相手を思いやる言葉をつかっている」の項目は、児童、保護者それぞれA評価が2～6パーセント上昇しています。「豊かなところ」の取組が効果を上げていると思われます。また、「学校の勉強はわかるか」「基礎・基本の定着を目指した指導」も、児童、保護者とも2～3%上昇しています。引き続き、一人ひとりに分かりやすい授業の展開を目指していきたいと思えます。

一方、「自分から進んで学習に取り組んだり、自分の考えをだれかに伝えるために努力をしたりしているか」の項目は、児童のC・D評価が12%となっており、保護者、職員のC・D評価0～5%との開きを感じます。また、「自らの考えをもち、最後まで学習に取り組んでいるか」は、児童のA・B評価が92%である一方、C評価が8%という結果となっています。学習に困り感をもっている児童がいるので、今後も教師が児童の実態をしつかりとつかみ、指導計画や方法を立てていく必要があります。児童自らが主体的に自分の思いや考えを伝えるために、「主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善」を、今後も全教職員で進めていくことが大切だと考えています。